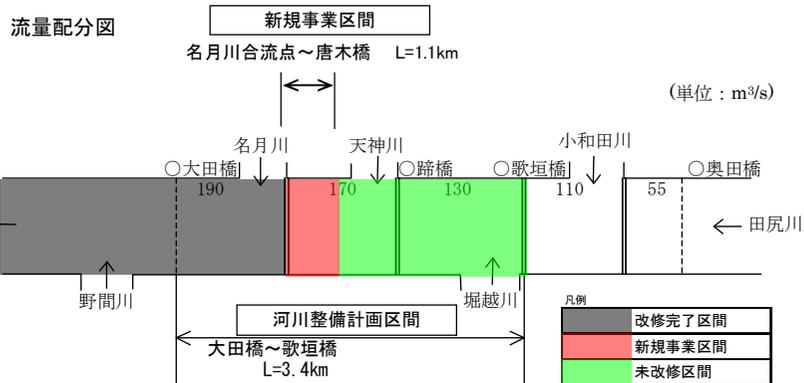
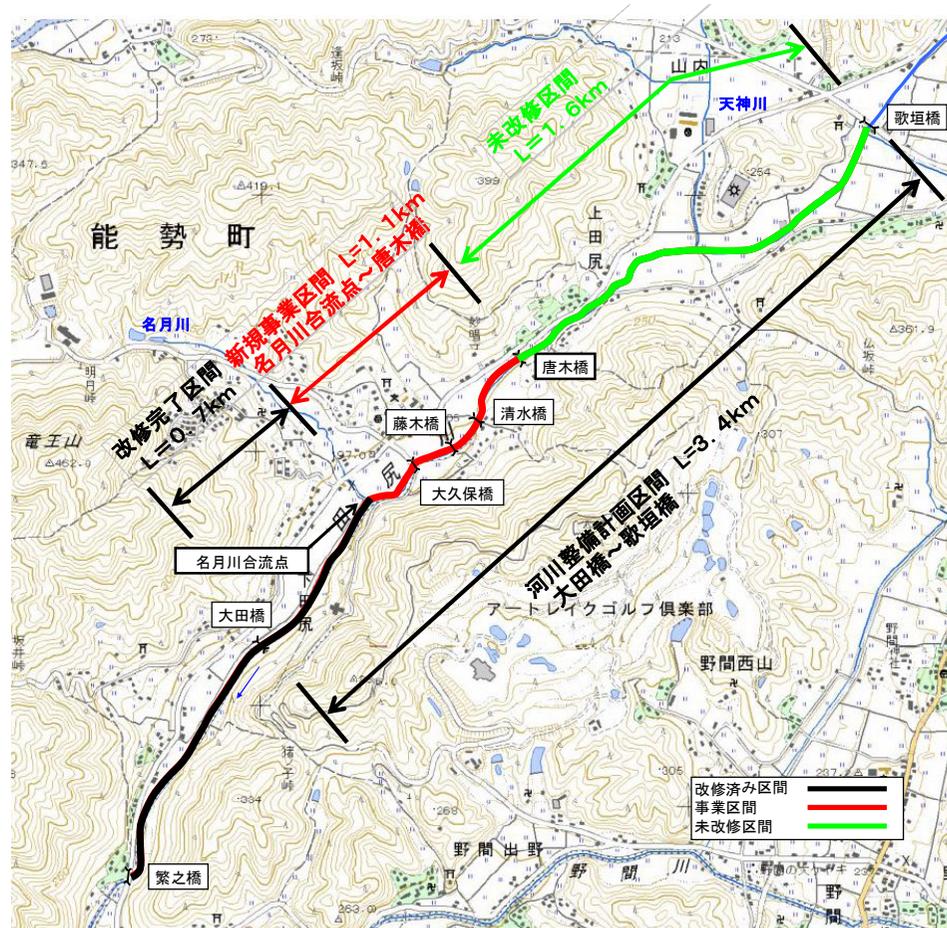
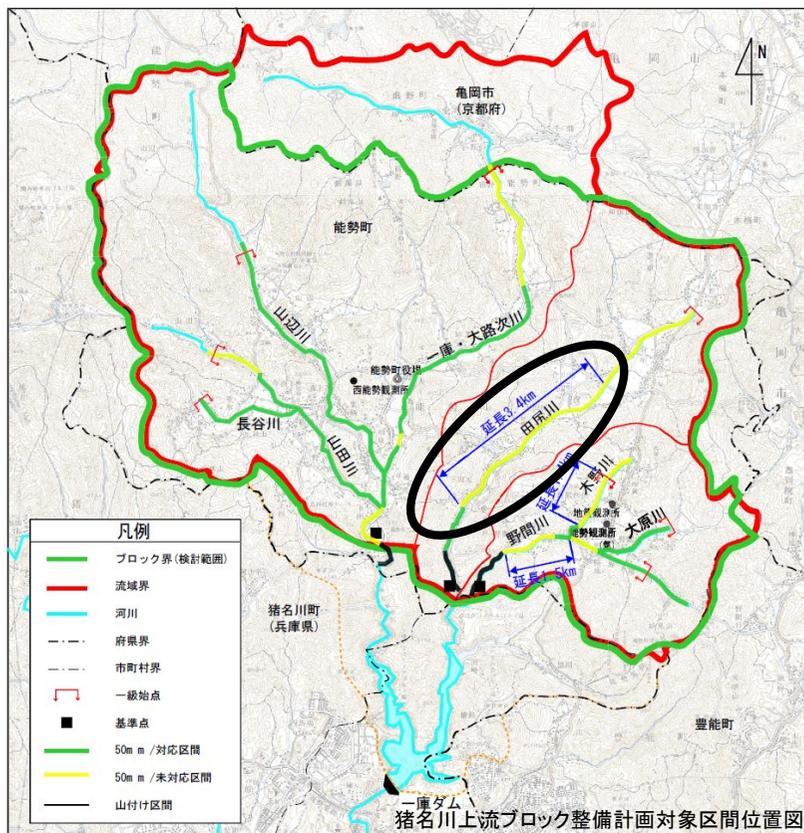


淀川水系猪名川上流ブロック河川整備計画(一級河川田尻川)

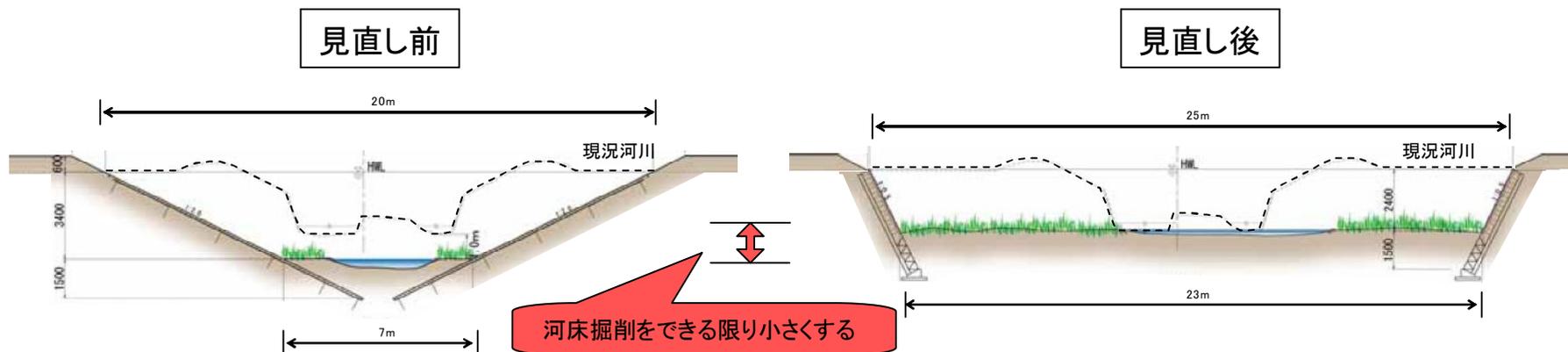
平成21年3月25日(水)
平成20年度 第6回
大阪府河川整備委員会

資料
2-3



淀川水系猪名川上流ブロック河川整備計画(一級河川田尻川)

名月川合流点～唐木橋までの改修断面の見直しについて



	見直し前	見直し後
護岸勾配	2割	5分
現況の河床掘削	1m程度	現況河床を可能な限り活かす
長所	・護岸が緩やかであり、親水性が高い。	・河床幅を広くとることで、川の変化を許容する。 ・現況河床の掘削をできる限り小さくすることにより、多様な河床環境を保全する。
短所	・みお筋の移動が妨げられ、川の働きが活かされない単調な形状の川となる。 ・大きく河床掘削を行うため、環境面に与える影響が大きい。	・護岸勾配が急であるため、親水性は低くなるが、階段を設置することで、アクセスを確保することが可能。

中小河川は、河川改修により川の構造が大きく変更されることがある。そのため、河道計画の検討にあたっては、「川の動きによって形成される複雑な地形を保全・回復する」、「川の動きを許容する空間を確保する」、「川の連続性を保全回復する」ことを可能とするような平面形、縦横断形を設定することが必要である。

出典：多自然川づくりポイントブックⅡ(2008.8)